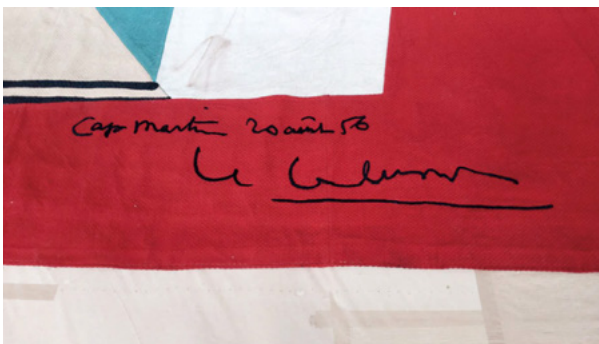
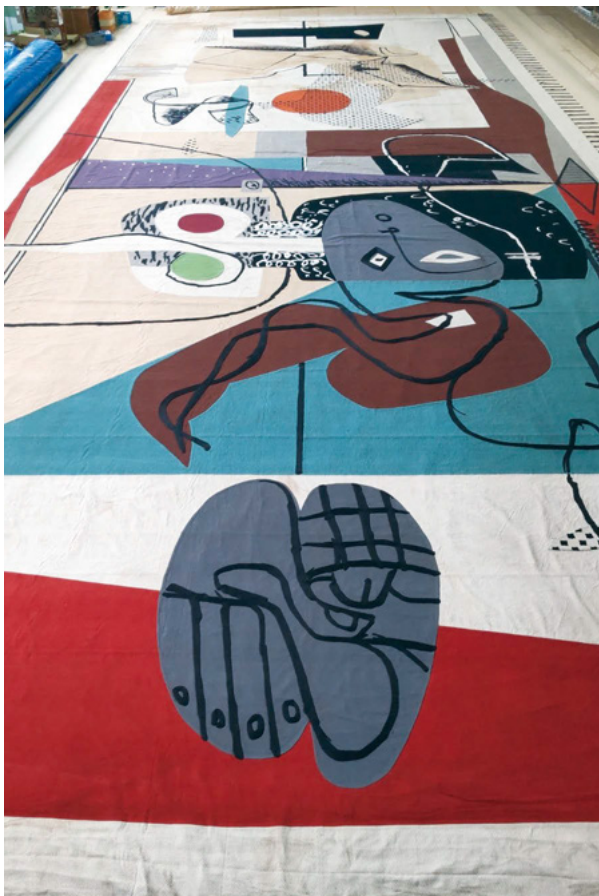


NAMA's Collection

旧東急文化会館パンテオン劇場にあった緞帳



坂倉準三設計の旧東急分解会館にあった劇場パンテオンの緞帳は、坂倉がル・コルビュジエに原画を依頼して、川島織物合資会社（現株式会社川島織物セルコン）により製作された。原画到着から完成披露まで3か月弱という短期間で制作された。

ル・コルビュジエの原画に基づくタピスリは数多く制作されているが、最大の大きさを誇る。

東急文化会館取り壊しに伴い、株式会社東急電鉄から国立近現代建築資料館に寄贈された。

これらの写真は2021年10月に行われた点検に合わせて実施された内覧会で撮影された。

詳細は本誌掲載論文「火のないところに煙は立たず ル・コルビュジエの原画に基づいて制作された東急文化会館の緞帳について」を参照。



写真撮影

左上：加藤道夫

左中、左下および右下：寺内朋子

NAMA's Collection

「プレモス」（設計：前川國男建築設計事務所）―戦後住宅復興の道標―
令和3年度収蔵品展「住まい」の構想 収蔵資料が物語る名作住宅 1940–1975、にて展示。



この図面（作成：1946年、寸法：555×572mm）は、実用化に成功した戦後復興住宅「プレモス七号型」の概要を説明した貴重な一枚である。プレモスは、戦後の住宅不足を解決すべく、前川國男が取り組んだ木造パネル組み立て方式の大量生産住宅であり、プレモスという名称は、プレハブの「プレ」と共同開発者3者、前川、小野薫（東京大学第二工学部教授）、山陰工業の頭文字を組み合わせた造語であった。実際に5000件ほどが建てられ、戦後日本の復興住宅の道標となった。

